

市民力がアジアと日本をつなぐ

贄川 恭子

特定非営利活動法人 WE21 ジャパン事務局長

自分たちの生活を見直し、変えていくことが、世界の諸問題を解決する道しるべとなる。
WE21 ジャパンは、リユース・リサイクル事業を基盤に、
人、物、お金、情報、知恵、時間など、市民のもつ資源をつなげ国際協力に活かすことで、
地域から世界を変えようとしている。

市民事業をネットワーク

WE21 ジャパン（以下WE21）は、神奈川県内の
三六の地域NPOをネットワークする組織である。各
NPOはリユース・リサイクル商品を販売するWE
ショップを1〜3店運営する。WEショップは全県で
五六店舗あり、ボランティア、品物寄付者、商品の
購入者を合わせると、年間五〇万人以上の市民がW
E21の活動に参加していることになる。

活動の柱は、環境事業、国際協力活動（WE21で
は国際協力とよんでいる）、共育（ともいく）／政策
提言活動の三つである。環境事業は、家庭から衣類
や雑貨を寄付してもらいWEショップで販売するリ
ユースを基本に、販売できなかった衣類は故繊維業
者を通じて海外輸出やウエス（工業用雑巾）・再生品
として活用している。ガラス・陶磁器の再資源化に
も取り組み、携帯電話や廃油の回収など、資源循環
を進めている。

こういったWEショップの収益で、国際協力事業、

アジアとつながる

フェアトレードへの取組は、活動開始からまもない
二〇〇一年に始めた。その理由は、アジアの人びとの
生活改善やコミュニティの形成に協力できること、輸
入品を通じてアジアとのつながりが目に見えること、
支援について市民に語りかけるツールになることだ
である。しかし、当初は現地団体と直接やり取りする
力量はなく、フェアトレード団体から仕入れる形を
とった。その際、判断の基準として、生産者、生産
物、活動団体、関係のありかたについてWEトレード
活動基準を定め、消費者の都合で現地の人びとの暮
らしを混乱させることがないように心がけた。

そして、二〇一〇年からは現地と直接トレードを始
めることになった。WE21は二〇〇四〜〇八年の五年
間、フィリピン・ルソン島北部ベンゲット州の住民組
織（以下PO）のネットワーク化を支援した。ベンゲッ
ト州は一五〇〇メートル級の山々が連なる山岳地域で
先住民族が多く住み、高原野菜栽培が盛んだ。ここ
で活動しながらわたしたちは、厳しい環境のなかで
助け合って生きるコミュニティの暖かさや結束の強さ、
木々や動物の命に感謝する生き方、シンプルなライ
フスタイルの大切さを学んだ。

民際協力から生まれたジンジャーティ

支援終了後は、ネットワークに参加するPOへの
側面支援が望まれた。このとき、思いついたのがジ
ンジャーティである。WE21グループのメンバーは毎
年何回か現地を訪問しているが、お土産として購入
するジンジャーティが好評であった。これを日常的に

共育／政策提言活動などを実施している。アジアを
中心とした民際協力事業では、厳しい状況におか
れている人びとが自分たちの力で生きていけるよう
NGOをおとした資金協力やフェアトレードをおこ
なっている。二〇二二年度はWE21グループ全体で、
世界二六か国、六〇のNGOが進める八八のプロジェ
クトへ資金提供した。また東日本大震災の被災地支
援など、国内支援にも取り組んでいる。

WE21では、世界で起きている貧困、環境、人権
問題などが、日本の消費社会と深くかかわっている
という視点から、共育活動を大切にしている。支援
先事業の内容をWEショップでの掲示やニュース配布
などを通じて消費者に伝えたり、講座やワークショップ
を開催して、世界で起きている問題とわたしたち
の暮らしとのかかわりなどについて考える場を作っ
ている。また、貧困問題をはじめ、フィリピンの鉱
山開発問題やNPOへの税制度など重要な課題につ
いて、キャンペーンや政策提言もおこなっている。

扱えるようにしたら、売上が彼らの活動資金になり、
市民にもつながりを感じてもらえる。その後準備期
間を経て二〇一〇年から正式に輸入・販売を始めた。
ピリッと辛いフィリピンのしょうが、料理にも活用でき、現
在は年間約四〇〇〇個を販売している。

ジンジャーティの生産者はPOのお母さんたち
だ。彼女たちの身近には病院がないので、病気に
かからないよう自分で健康を管理し、ガーリックやジ
ンジャーをよく使う。ジンジャーティはしょうがをすりお
ろして絞った液と砂糖を煮詰めてパウダー状にした
ものだ。メンバーが村の集会場に集まって作り、一袋
（二五〇グラム）あたり八〇ペソ（約一六〇円）が彼ら
の現金収入になる。子どもたちの学用品代など家計
の足しになったり、村の基金として貯めておき、村人
が町の病院などに行かなければならなくなったとき
に交通費や診療費に使ったりしている。その他、一袋
あたり四五ペソ（約九〇円）は、POの調整、品質・
量の管理、梱包、送付などを担当する現地NGOに
委ねられ、母子保健活動の資金になっている。

ジンジャーティというひとつの商品に大勢の人びと
がかかわり、彼らの生活向上に役立っている。何よ
りも、温かなジンジャーティを飲むたびにベンゲッ
トの人びとを身近に感じることが出来る。彼らの暮ら
しの知恵を共有しながら、ベンゲット州の人びとや
彼らが抱える問題を知ってもらおうツールとして、ジ
ンジャーティをWEショップやインターネット販売し
ている。



村人が共同で作るジンジャーティ。素焼きの土鍋でじっくりと作る



ピリッと辛いフィリピンのしょうが。ジンジャーティ（しょうが糖）1袋150g入り800円（税込）



村には病院がないので、母子保健活動が必要とされている



フィリピン、ルソン島ベンゲット州の住民組織の集会所。厳しい環境のなかで人びとは助け合って生きている



品物寄付とボランティア参加のリユース・リサイクルショップ「WEショップ」。